

# 地球科学輻合ゼミナール

## (2008年度 後期 第3回)のご案内

「中高緯度対流圏循環の形成と変動  
～偏西風とストームトラック～」

向川 均(防災研究所 気象・水象災害研究部門  
災害気候研究分野)

講演要旨:

中高緯度対流圏の大気大循環の主要部分は、偏西風とその中を東へ移動する高低気圧波動で特徴づけることができる。また、偏西風は大陸東岸で極大となり、高低気圧活動も偏西風の極大域のやや下流側で極大となる、著しい東西非一様性を示す。高低気圧波動の活動が極大となる領域はストームトラックと呼ばれ、そこでは、高低気圧波動に伴う熱や運動量フラックス、さらには、降水に伴う非断熱加熱が極大となるため、対流圏中高緯度の気候場(時間平均場)の形成にストームトラックは極めて重要な役割を果たしている。

ここではまず、ストームトラックを形成する個々の高低気圧波動の成因である傾圧不安定について簡単に説明した後、偏西風やストームトラックの形成、特に、その東西非一様性の形成を理解するために行った大気大循環モデルを用いた数値実験結果について紹介する。さらに、近年、あるいは将来の地球温暖化時におけるストームトラックの経年変化に関する最近の研究についてもレビューを行う予定である。

10月22日(水) 午後4:30～午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室